



持ちすぎている

二〇〇九年九月十四日から一人
でローマ、アシジ、フィレン
ツェ、ミラノを巡礼した。その
時の巡礼記。

九月十五日未明

なかなか寝つけない。

四時頃から稲光が窓を照らし、
雷鳴がとどろく。強い雨。
窓の厚いカーテンを開け、白い
薄いカーテン一枚にしてベッド
に横たわる。

眠りにつけない。

かつて、二十五年前、アシジの

カルチエリで雨に打たれながら
書き留めたことばを思い出す。

かつて

このおなじ

雨音を

彼も聞いた

彼は

きつと

窟から出て

聴いただろう

破衣が

濡れても

かまわずに

雨にあわせて

彼の調を

うたっただろう

雨と

泪が

いっしょになって

頬を伝わる

おおきく

口をあけて



やまもと まこと 山元 眞 神父

雨の中で

彼は

自分の

うたを

あの方に

捧げたに

ちがいない

フランチェスコのことが、マ

ザーテレサのことが、そしてマ

リアのことが巡る。

「持ちすぎている」

イエスは金持ちの青年に言った。「あなたの持ち物をすべて売り払い、貧しい人に施しなさい」

わたしは持ちすぎている。

「わたし」があるだけでいいのに、持ちすぎている。神のほかに、そして「わたし」のほかに、何があるだろう。

ローマ留学から帰国して二十五年。きつくてたまらなくなっていたこの頃。持ちすぎていることに気づいた。持ちすぎているからきついのだ。

このままでは福音を伝えることができない。それには、うすうす気づいていた。それを無視していた。無視していても福音が迫ってくる。捨てなければ、これ以上、福音を伝えることはできない。

なぜ、フランチェスコに魅かれ、マザーテレサに魅かれ、マリアに魅かれてきたのだろう

か。今までずっと。

時が来た。わたしも捨てなければならぬ。

「持ちすぎている」

このことをしっかりと、夢とにならないように、後で自己否定することのないように、今、しっかりと身に、そして心に染み込ませねば。しっかりと。忘れないように。後でごまかさないうように。このことを書き留めておかなければ…。

起き上がり、書き始めた。雷鳴が止んだ。稲光も。雨も。

神を信じている。だとすれば、神を信じているように生きなければならぬ。そのように生きるはず。神がいるのであれば、神が必要とされるものだけを持つてばいい。

わたしに必要なものは、神とのつながり。それを助けるもの。それは祈り。祈りの時と場所があればそれでいい。そこで神が示してくださったことを伝えればいい。

わたしは余計なものを持ちすぎている。

神の想いをとらえる心があればいい。それは与えられる。

神を信じているのであれば、そのように生きる。神を信じているのであれば、そのように見える。神を信じているのであれば、そのように聞こえる。

(ローマにて)

【教会ホームページ】

[http://www.](http://www.yukuhasi.catholic.ne.jp/)

[yukuhasi.catholic.ne.jp/](http://www.yukuhasi.catholic.ne.jp/)

【ブログ】

<http://micheleyam.exblog.jp>

＝善き隣人として奉仕する＝

葬儀の御用は弊社に

TEL 03-3702-0156 FAX 03-3702-0159

※御報参上・手続代行他。

(株)

沼崎商会

〒158-0086 東京都世田谷区尾山台3-9-6

サマリア式典部 沼崎 馨